平成３１年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立（　山内西　）小学校

１　児童の実態

1. 学習状況調査結果の推移

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 国語 | | 算数 | |
| 5年時 | 6年時 | 5年時 | 6年時 |
|  |  |
| H27入学  現5年 | 62.9 |  | 69.1 |  |
| ( 0.96 ) |  | (　1.06　) |  |
| H26入学  現6年 | 73.8 | 67 | 76.5 | 70 |
| ( 1.11 ) | (　1.06　) | ( 1.08 ) | ( 1.06　) |
| H31正答率の全国比 | | (　1.05 ) |  | ( 1.05 ) |

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は、県平均を1としての比較。

◎「Ｈ３１正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

　(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

|  |
| --- |
| 【現5年生】  ・算数は県平均同等、国語は県平均を下回っていた。無回答率が高く、後の設問まで時間内にたどり着くことができていない児童もいた。特に、国語、算数ともに記述問題の無答が多かった。  《国語》  ○「書く」の正答率は県より7.2ポイント上回っている。目的に沿って分かりやすい表現を用いて回答することができた。  ▽ローマ字の記入の仕方を忘れ、正しく表記できない児童が多かった。  《算数》  ○「技能」の正答率は82.3ポイントで、「十分達成」に到達するところである。小数や分数の場合の加減乗除は確実に解ける児童が多い。  ▽1ｍが100㎝、1㎝の100個分の認識がない。量感を身につけさせることが課題である。  ▽記述問題では、書き進めるにつれて文がねじれている誤答が目立った。  【現6年生】  ・国語、算数ともに県平均を上回り良好な状態である。国語は昨年度より数ポイント落ちているが、県や全国と同等であることがわかる。  《国語》  ○「書くこと」は全国値を2.1ポイント上回っている。「書くこと」に対して抵抗なく、自分の考えや適切な解答を記入できている。  ▽全国や県の正答率は高いが、同音異義語「タイショウ」「カンシン」の誤答が多い。  《算数》  ○「図形」領域は全国値より6.6ポイント上回っており、図形の定義や性質の理解は高かった。また、「数学的考え方」は全国値より5.5ポイント、「記述式」は全国値より4.5ポイント上回っており、自分の考えをもち解答できた。  ▽「一人あたり」や「何ｍ分」といった基準があいまいで、何を求めなければならないかを理解していない児童が多い。  【意識調査（5、6年）】  ・家庭学習については、5、6年共に「宿題をしている」と答えている。学習時間については、「1日あたり1時間以上」と答えた児童は、5年生81.9％（県58.5％）、6年生92.5％（県64.4%）と県平均を上回っており、学習習慣が定着している。  ・「1日あたりテレビ、ゲーム、ＤＶＤの時間が2時間以上」の回答では、5年生が42.5％であり、家庭での過ごし方を考えさせていく必要がある。  ・「読書が好きですか」の回答では、5年生87.9％（県83.2%）、6年生82.5%（県77.8%）であり、質の向上を図りたい。  ・地域行事への参加率は、県に比べて高く、地域とのつながりも強く、自己肯定感も高い。「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童は5、6年ともに100％であった。 |

２　改善に向けた具体的な取組

1. 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

|  |
| --- |
| ・「授業づくりステップ1,2,3」のステップ3を目指して授業づくりを行うことを本年度の重点目標に掲げており、「授業改善チェックシート」を活用し意識付けや共通実践を確認した。【授業改善の意識付け】  ・「何を問われているか」「着目する点はどこか」「文と文とのつながり」などがわかるように、問題やノートに書き込ませる指導が必要である。【書き込み指導の徹底】  ・「読むこと」に課題があり、その対策として、「読書活  動の充実」を掲げている。多読者を公表するなど読書活動の励行は行えているが、今後は読書の質の向上を図れるよう、ジャンル別読書の推進を図ったり、呼びかけの充実を行ったりしていく。【読書活動の充実】 |

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

|  |
| --- |
| ・立腰教育を基盤にして、気持ちのよい「返事」「あいさつ」「言葉遣い」「話を聞く姿勢」「履物そろえ」を全校で実践させ、落ち着いた学習習慣と学習規律の向上を図る。【学びの土台づくり】  ・朝の時間は月曜日の音読タイム、火、木、金曜日の「花まるタイム」と位置付けており、目的や実施内容を共通理解し共通実施することで、活気ある雰囲気と集中力を身につけさせている。また、地域の方に「花まるボランティア」として丸付けや声掛けをしていただき、効果的な活用をめざす。【朝の時間の充実】  ・教員同士が指導法について学び合ったり、教材研究をしたりする時間をして「先生やる気タイム」「模擬授業研修」を確保し、共通実践と指導力向上を図る。【教員相互の学び合いの充実】 |